

岡崎ホスピスケアを考える会通信

2003 年 11 月

22 号

事務局：橋詰 0564-53-3100 小野 0564-24-8518 URL <http://www1.ocn.ne.jp/~hospice/>

9 月の勉強会報告

9 月 19 日（金）「私のたまため箱」＝遺言書の書き方と「ホスピスボランティアとは」

「遺言書の書き方」（P31～）は、死後の手続きを中心に勉強しました。

- ①死亡してからすぐのこと → 死亡診断書で死亡届を市役所に提出・火葬埋葬許可証をもらう
- ②その後のこと 公的手続き（2 週間以内位で） → 市役所関係・社会保険事務所関係
- 私的手続き → 預金相続手続きに必要なもの＝遺言書・戸籍謄本など
- 生命保険の死亡保険金手続きに必要なもの＝死亡診断書など

「私のたまため箱」に、加入している生命保険の会社名、電話番号、保険証券番号などを一覧表にしておく
と分かりやすい。死亡診断書は何通も要るので必要な枚数を数えてから取りに行くといく回も行かなくてす
む、など経験された方からの話を聞きました。

愛知国際病院ホスピスボランティア 毛利祐子さん・田中淑美さんのお話から

- ①患者さんが望まれたことをさせていただく ②私がやってあげたいと思うことを押しつけない ③患
者さんのありのままの姿を受け入れる ④私は謙虚に寄り添うだけ ⑤関わりきろうとする意志も大切
このような気持ちでボランティアをしていच्छるそうです。（小野）

10 月の勉強会報告

「終末期の患者さんに寄り添う心のケア」カトリック布池教会太田実司祭



病人と家族の日常を支えるものとして実母を世話されるお姉様、そしてそのお姉様の愚痴を
聞く事がご自分の役割だという例を示され、すぐそばで介護する人が一番疲れる、その介護す
る人をケアする大切さを、体験談を交えてわかりやすく説明してくださいました。

また阪神大震災の時のある母親と息子さんの話。いつもは母と息子は 2 階で寝ていたけれ
ど、息子は一階でぐっすり寝ていたため、母親は自分だけ 2 階で寝ることになった。そんな時あの地震が起こり
ます。自分が息子を殺したと、自分を責める母親にボランティアがしたことは話を聴くことでした。母親
はボロボロになりながらもかろうじて命をつなぎます。聴くことの大切さがあらためてわかりました。

病とどう生きるかという問いに対して、「病いと死に向き合わざるを得なくなったとき、病いが治るか
治らないかということばかりに心をとられるのではなく、病いと死を超えて人生を生きるということ
に精魂を傾けていくべきではないだろうか」という立川昭二さんの『病いの人間学』を引用されました。

重大な問題に直面した時のために覚えておきたい、とても心に残る勉強会でした。（中村）

◆ご 案 内

勉 強 会 12 月はお休みします。

2004 年 1 月 17 日（土）10 時～14 時（各自昼食をご持参ください）

場 所：アイプラザ岡崎勤労福祉会館小ホール

講 師：沼野尚美 神戸六甲病院緩和ケア病棟チャプレンカウンセラー

テーマ：「家族ができる心のケア」＜癒されて旅立ちたい＞

終末期を迎えた患者の気持ちを理解し家族ができる心のケアを話し合ひましよう

午前はハーブの演奏と講演、午後は交流を行います。

2 月 20 日（金）10 時～12 時 アイプラザ岡崎勤労福祉会館第 4 会議室

「次年度計画」どのようなことをしたいか、希望を出し合ひましよう。

手縫いの会（毎月第 2 火曜日）県立愛知病院機能訓練室 12 月はお休みします。

2004 年 1 月 13 日（火）10 時～12 時 2 月 10 日（火）10 時～12 時

つ ど い（毎月第 3 木曜日）アイプラザ岡崎勤労福祉会館 12 月はお休みします。

2004 年 1 月 15 日（木）10 時～12 時半 2 月 19 日（木）10 時～12 時半



◆報 告

“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院などに毎月雑巾などをお届けしています。

11月に入り気温が下がり始め、病院では湯たんぽの出番が増えてきたそうです。湯たんぽカバーは裏布として新しいタオルを使っています。この新しいタオルが不足していますので、ご協力ください。

氷まくらカバーや冷湿布カバーなども作っております。ミシンで縫っていただける方はぜひ、お声をかけてください。皆様のご協力よろしくお願いします。
(服部：0564-23-1263)

10月26日 福祉祭り
展示風景



“つどい”の報告

患者・家族・遺族の集まりです

“つどい”を担当して1年半が立ちました。参加してくださる方たちとの出会いを通じて、一緒に悲しんだり、喜んだり、いつもそこは寄り添い、いろいろな思いを分かち合う場でした。これからも自由に話ができ、聴きあえる場であるようにと願っています。
(柴山)

◆ある患者さんのお話「人工肛門をつけたら・・・」

ストーマは、ギリシャ語で口を意味し、手術によって腹壁に作られた排泄口をさします。自分で排泄をコントロールする機能が失われるために、私も最初は不自由で苦労しました。皮膚のただれ、排泄物の漏れなどはストーマにあった装具を選ぶことで解決できます。下痢・便秘は食事の取り方、環境の変化に注意しています。それでも自分の体が臭わないかと心の不安はあります。

市町村や所得によって異なりますが、申請すれば装具の補助金などが支給されます。福祉活動により、全国に人工肛門・人工膀胱用のトイレが駅やサービスエリアなどにできてきました。食事、入浴、外出、旅行も普通にできます。毎月「健心友の会」で医師と相談しながら勉強しています。

心のケアと身体の悩みを、と一緒に相談し良き人生を語りましょう。

「健心友の会」の12月勉強会は6日午後1時半から岡崎の竜美丘会館で行われます。参加費は無料です。どなたでも入れます。どうぞ、一緒に参加しましょう。
(神谷花子)

◆運営委員会からの報告

1. 福祉まつりに参加して

副作用で髪の毛が抜ける娘さんのために、バンダナを作って欲しいという依頼があり早速ニットで作りました。寝ていても首筋がすっきりして気持ちがいいと喜んでいただきました。

2. 井田小学校5年3組から文集が届きました。

世界にひとつしかない自分で作った雑巾を「あげたくない」という気持ちから、「あげよう」と決心していくまでの正直な気持ちに、感動しました。『人を幸せにする魔法』という文集のタイトルはホスピスケアそのものです。勉強会の折にご覧下さい。

3. ご寄付ありがとうございました。 西家洋治様

みなさまの参加を
うきうきしています

□2004年1月勉強会のご案内□□□□□□□□□□岡崎ホスピスケアを考える会

家族ができる心のケア
＜癒されて旅立ちたい＞

日 □時：2004年1月17日（土）午前10時～14時

場 □所：アイプラザ岡崎勤労福祉会館

講 □師：沼野尚美 □神戸八甲病院緩和ケア科棟チャペルカウンセラー

参 加 費：500円（会員・学生無料）

問合せ先：橋詰 □53-3100 □

小野 □24-8518 □



一月十七日（土）